

会議録（案）

会議の名称	平成30年度 第1回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成30年6月6日（水） 午後7時から午後8時40分
開催場所	保谷庁舎 別棟B・C会議室
出席者	委員：廣瀬副委員長、有賀委員、田中委員、中平委員、中村委員、西田委員、田邊委員 （欠席：赤澤委員長、島田委員、山本委員） 事務局：小関生活文化スポーツ部長、田中文化振興課長、栗林文化振興係長、高松文化振興係主事、圓田文化振興係主事
議題	1 開会 2 生活文化スポーツ部長あいさつ 3 文化芸術振興推進委員会の運営について 4 平成30年度 第2期文化芸術振興計画 策定スケジュールについて 5 西東京市文化芸術振興計画 団体・施設ヒアリング報告書（案）について 6 第2期文化芸術振興計画概要（案）について 7 第2期文化芸術振興計画骨子（案）について 8 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 西東京市文化芸術振興推進委員会設置要綱 資料2 西東京市文化芸術振興委員会傍聴要領 資料3 平成30年度西東京市文化芸術振興推進委員会委員名簿 資料4 平成30年度 第2期文化芸術振興計画 策定スケジュール 資料5 西東京市文化芸術振興計画 団体・施設ヒアリング報告書（案） 資料6 第2期文化芸術振興計画概要（案） 資料7 第2期文化芸術振興計画骨子（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 2 生活文化スポーツ部長あいさつ ・開会にあたって、生活文化スポーツ部長よりあいさつを行った。 3 文化芸術振興推進委員会の運営について ・事務局より、資料1を用いて委員会の目的や運営について説明を行った。 4 平成30年度 第2期文化芸術振興計画 策定スケジュールについて	

資料 1

・事務局より、資料 4 を用いて第 2 期文化芸術振興計画の策定スケジュールについて説明を行った。

(要点)

- 委員会は 6 月、9 月、12 月、2 月、3 月に実施する。
- パブリックコメント等、市民参加手続きは 10 月に実施する。

5 西東京市文化芸術振興計画 団体・施設ヒアリング報告書(案)について

・事務局より、資料 5 を用いて団体・施設に行ったヒアリングの内容について説明を行った。

(要点)

- ヒアリングは市民、団体、文化施設等を対象に行った。
- 西東京市の長は、多様な市民活動が行われており、文化施設においても市民の文化芸術活動の支援が行われていることなどが挙げられる。
- 文化芸術振興にあたっての課題としては、施設等の条件にあった事業のあり方を検討する必要があることなどが挙げられる。

○委員：

・ゆめこらぼへのヒアリングは前センター長に聞いたのか。

○事務局：

・その通りである。

○委員：

・ホールを運営する立場でも市民の文化活動が活発だと感じる。今後は、地域と連携した取組を展開していきたいと考えている。商店街や学校との連携を深めていきたいと考えている。

○委員：

・子どもの鑑賞機会が気になっている。親の興味が子どもの興味に繋がるので、関心がなければ子どもの機会損失に繋がる。東京都のヘブンアーティストの取組などのように子どもが普段いるような場所で文化芸術の取組ができるとよいと思っている。

○委員：

・市民活動が活発なのは知っているので、それを市民に伝えられれば、もっとうまくいくのかなと思う。情報発信の仕組みができるといい。

○委員：

・どこで何をやっているのかを広報しないといけない。西東京市の広報は文化芸術に紙面をとってもらえない。文化芸術だけの媒体を発行している自治体もある。
・文化芸術に関係している団体や市民はスペースを必要としている。発表だけでなく、練習の場が必要なので、小学校の講堂の利用なども含めて、公共のスペースの門戸を開いてもらえると助かる。発表の場としては、20万人都市にふさわしいホールも必要だと思う。1,500人規模の大きさになれば、様々な公演を行うことができるようになる。すぐにできるものとは思わないが、いまから検討・計画しておかないといけないだろう。

○委員：

・駅単位ではなく、全市を挙げて、広がりのあるイベントが西東京市にもあるとよい。今は個別の取組しかないように思う。

○委員：

・ホールについては、文化芸術振興計画の中でも検討していくのか。

○事務局：

・計画の本質的な内容として、文化施設のあり方の中で議論をいただくことになる。

○委員：

・100%賛成ではないが、賛成・反対、色々な意見があると思う。時間をかけて議論をしっかりとっていくことが大事だと思う。計画の中でもホールをつくることではなく、検討していくことを入れるべきである。

6 第2期文化芸術振興計画概要（案）について

事務局より、資料6を用いて、第2期文化芸術振興計画の概要について説明を行った。

（要点）

○改定にあたっては、健康と地域共生社会を念頭に置いて検討し、計画立案を進める。

○アンケート調査からは、文化芸術が健康等にもたらす効果が期待されていることが分かった。

○ヒアリングでは文化芸術に関する市民活動が活発という意見が聞かれたが、アンケートでは市民が文化芸術に親しんでいるという印象は感じられていないことが分かった。

○第2期計画では、第1期計画の目指すべき姿は踏襲するが、心身の健康、地域への愛着、共生社会の実現、地域の活性化という効果を目指すべき姿の下に位置づける。

○改定にあたっての課題認識は、①市民に身近な鑑賞機会のあり方、②文化芸術活動の担い手を広げている取組の推進、③文化芸術を通したまちづくりへの展開を挙げている。

○事務局：

・西東京市では基本計画を見直しているところだが、計画期間中であることから大幅な改定はしない。第2期計画も大幅に変えることなく、第1期計画の内容を踏襲することを前提としている。法律改定やオリンピック・パラリンピックの開催などを踏まえ、他分野との連携を図ろうと考えているところである。

○委員：

・目指すべき姿で「一人一人」とあるが、「一人ひとり」の方がよいのではないか。

○事務局：

・検討させていただく。

○委員：

・「現状と課題」と「方針」が書かれているが、「方針」に沿って取組を進めたときにどうなるのか。たとえば「文化芸術に親しむきっかけづくり」とあるが、具体的にはどのようなことをイメージしているのか。実際に実施する際には費用や場所が必要になる。

○事務局：

・「計画の体系（案）」にある施策の中で具体的な取組を位置づけていきたい。次の資料で考え方や例示を説明するので、ご意見をいただきたいと思う。

○委員：

・文化芸術活動の担い手というのは具体的にどのような人だと考えているのか。

○事務局：

・鑑賞者も含めて、文化芸術にかかわるすべての市民が担い手だと捉えたい。ただし、

市民団体等、活動している人たちが中心的な担い手にはなる。

7 第2期文化芸術振興計画骨子（案）について

事務局より、資料7を用いて、第2期文化芸術振興計画の施策体系について説明を行った。

（要点）

- 施策体系は、第1期計画を踏襲し、次の5つの方針を位置づける。①参加のきっかけづくり、②市民が活動しやすい環境づくり、③文化芸術を担う人づくり、④伝統文化等の継承、⑤交流による活動の拡大・活性化。
- 委員：
 - ・基本方針1の施策5に情報発信が位置づけられているが、これはすべての方針にかかわるのではないか。体系の中で独立させてもよいのではないか。
- 事務局：
 - ・体系は大幅に変えないが、位置づけについては検討していきたい。
- 委員：
 - ・学校は先生個人に左右されるように思う。先生の個人の努力に任せず、仕組みとして継続した取組ができるとよいと思う。
- 事務局：
 - ・教育委員会や学校長の理解も必要となる。継続して取り組んでいく中で理解を得ていきたい。
- 委員：
 - ・全体として何を目指して行っていくということが示されていると分かりやすいと思う。西東京市らしさが出せるとよいと思う。
- 事務局
 - ・施策全体に関わる横断的な考えが「目指すべき姿に向けて文化振興を行う過程で実現するイメージ」に示す4つの項目であると考えている。
- 委員：
 - ・市民団体は無理をしながら活動をしている。横の繋がりが無いまま、個々に一生懸命やっているのが現状だ。それで満ち足りているのが現状かもしれないが、それに頼っていると10年後には活動がなくなってしまうかねない。それを支える姿勢を見せてもらいたい。
- 委員：
 - ・小さな芽でも育てていってもらえると良いのではないか。勝手にやっているのではなく、支援してもらえるとというのが西東京市の売りになるのではないか。
- 委員：
 - ・情報発信がひとつの支援だと思う。どこかに情報を提供すると、その情報を広めてもらい、団体同士が繋がっていくといいと思う。
- 委員：
 - ・ヒアリングでもニーズが出ており、市役所としてできることはまだまだあると思う。第2期計画で取り上げてもらいたい。
- 委員：
 - ・情報発信についてはいつも意見が出るが、市民に届ける方法を考えた方がよい。

8 その他

以上

〈閉会〉